

## 公募説明会

# 大阪・関西万博を契機とした大学等を 中核とする産学官連携の加速化事業

令和6年4月4日

文部科学省 産学連携・地域振興課  
拠点形成・地域振興室

# 大阪・関西万博について

## 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）開催概要



- 大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を体現する様々な参加形態や事業、会場のデザインを含む会場計画、運営計画、資金計画等をまとめた協会のマスタープラン「基本計画」を2020年12月25日策定・公表
- 基本計画に基づき、参加国、国際機関への招請活動や企業・団体・自治体・市民団体等の参加と共創を促進するとともに、各事業の実施計画の策定や具体的な取り組みを推進

### 開催概要

名称	2025年日本国際博覧会（略称：大阪・関西万博）
テーマ	<b>いのち輝く未来社会のデザイン</b>
サブテーマ	Saving Lives（いのちを救う） Empowering Lives（いのちに力を与える） Connecting Lives（いのちをつなぐ）
コンセプト	<b>People's Living Lab（未来社会の実験場）</b>
会場	夢洲(ゆめしま)（大阪市此花区）
開催期間	2025年4月13日～10月13日



7

## 2025年大阪・関西万博がめざすもの

- ☑ 持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献
- ☑ 日本の国家戦略Society5.0の実現

## 2025年大阪・関西万博で実現すること

- 1 最先端技術など世界の英知が結集し新たなアイデアを創造発信
- 2 国内外から投資拡大
- 3 交流活性化によるイノベーション創出
- 4 地域経済の活性化や中小企業の活性化
- 5 豊かな日本文化の発信のチャンス

# 文部科学省出展企画(アクションプラン)

6 . 最先端の科学技術

連絡先 文部科学省産業連携・地域振興課  
(03-6734-4020)

## 「共創の場」が創る“未来のありたい社会”

### ①実施概要

- ◆ SDGsを踏まえた未来のありたい社会像を実現するため、「共創の場形成支援プログラム」等の産学官連携事業により、大学等を中心に、産業界や地方自治体等とのパートナーシップによる研究開発や社会実装を推進。
- ◆ カーボンニュートラル、MaaS等のモビリティサービス、医療・ヘルスケア、食糧問題、気候変動等のさまざまな社会課題の解決を目的とした研究開発により、着実に社会実装の芽を創出。
- ◆ 大阪・関西万博においては、産学官連携事業の参画拠点による成果の発信、対話型コンテンツ等を通じて参加者が社会課題を自分事として捉える機会を提供。

(実施主体) コンソーシアム(文科省、参画拠点の大学・自治体・民間企業等)

(実施場所) 会場内(メッセを想定)

(実施期間) 開催期間中(開催期間前後に複数の関連イベントを拠点と連携して実施予定)

### ②今後の実施方針

- 2023年度：コンソーシアムによる企画・検討
- 2024年度：コンソーシアムによるコンテンツの制作、関連イベントの実施

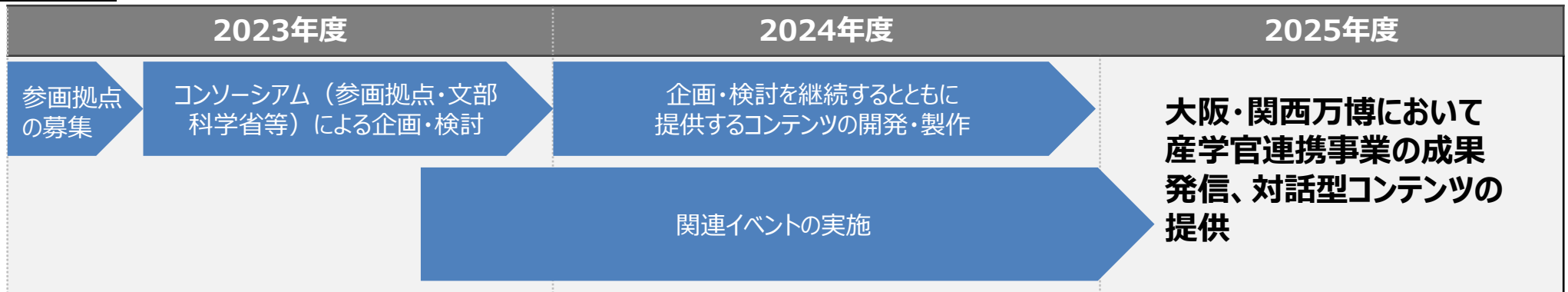
### ③予算

令和5年度補正予算額：121百万円の内数

令和6年度概算決定額：55百万円の内数



### ④工程表



※国際博覧会推進本部「2025年大阪・関西万博アクションプランVer.5」個票P.81 抜粋  
[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/expo\\_suisin\\_honbu/pdf/apver5\\_kohyou.pdf](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/expo_suisin_honbu/pdf/apver5_kohyou.pdf)

# 一会場(本番イベント)一



# —会場(本番イベント)—



## 【EXPOメッセ】

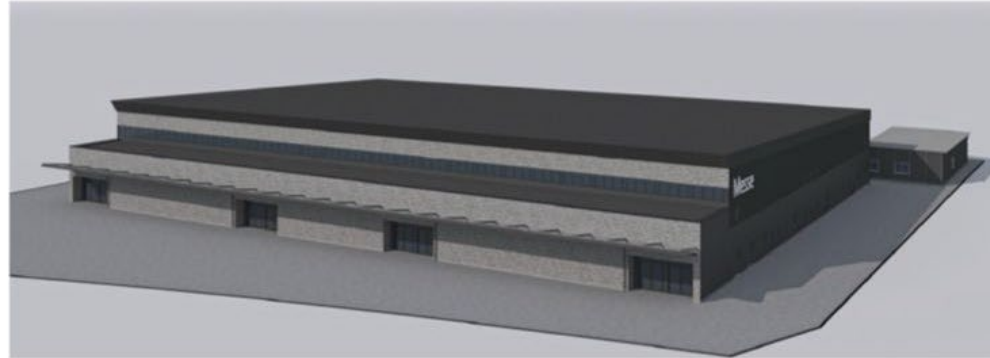
屋内型展示場

面積：2,000m<sup>2</sup>

最大収容人数：約1,500人

(1日の来場者総数想定：10,000人)

使用日数：9日 (うち設営撤収2日程度)



※メッセ会場の半面(4,000m<sup>2</sup>／2=2,000m<sup>2</sup>)を使用



- ・世界規模の課題の解決に向けた対話プログラムやビジネス交流の他、展示会、見本市の拠点
- ・出入口前には、柔らかな光を通すテントの庇(ひさし)を配し、来場者の溜まり場としてマイルドな空間を演出
- ・建築面積 4,900 m<sup>2</sup>、収容人数約 3,000 人

# 大阪・関西万博を契機とした大学等を中核とする産学官連携の加速化

令和5年度補正予算額

1億円



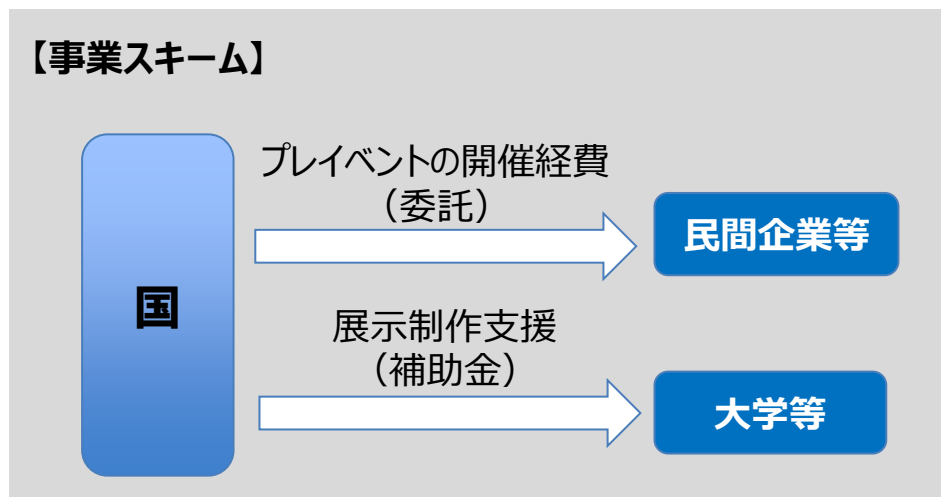
## 現状・課題

知と人材の集積拠点である大学等のイノベーション創造への役割が増している中、産学官連携事業を通じた研究成果を国内外に発信することにより、大学等への更なる投資や産学官連携を加速化する必要がある、「最先端技術など世界の英知が結集し新たなアイデアを創造発信」や「国内外から投資拡大」等を目的とする大阪・関西万博の場で産学官連携の成果を提示することは極めて重要。

## 事業内容

共創の場形成支援事業等における各大学の取組みを素材として、万博（テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン）を、国内外から参加する人々が未来を創る「科学技術」や未来を創っていくための「共創」と出会う場として活用。

- 大阪・関西万博の機会を最大限活かすために、万博期間中だけではなく、展示・体験コンテンツ等の質を担保したプレイベントを早期に開催。
- 本番を見据えたプレイベントにおいて、心を揺さぶる「実体験」を伴う「展示物」が会場で提供されるよう、大学等における体験型のインタラクティブな展示の制作を支援。



## 成果

大阪・関西万博のムーブメントを契機として、産学官連携事業を通じた研究成果を国内外に発信することで、国内外の企業等からの更なる投資・産学官連携の加速化に貢献し、もって科学技術・イノベーションの向上に寄与。

# 大阪・関西万博を契機とした大学等を中核とする 産学官連携の加速化事業のポイントについて

# 1. 本事業の趣旨・目的 (公募要領 p.1)

---

- 昨今、知と人材の集積拠点である大学等のイノベーション創造への役割が増している中、我が国が、世界に伍して競争するためには、将来の不確実性や知識集約型社会に対応したイノベーション・エコシステムを「組織」対「組織」の産学官共創により構築することが必要。そのため、文部科学省ではこれまで国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）とも連携し、「センター・オブ・イノベーション（COI）プログラム」や「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」等、様々な産学官連携施策を実施。
- 特に、令和2年度に開始したCOI-NEXTでは、大学等が中心となり、企業や自治体、市民など、多様なステークホルダーを巻き込みながら、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に基づく未来のありたい社会像（拠点ビジョン）を策定し、その達成に向け、バックキャストを通じたイノベーションに資する研究開発と、自立的・持続的な拠点形成のために必要な産学官連携マネジメントシステムの構築を同時並行で推進。
- 令和7年（2025年）には、「2025年日本国際博覧会」（大阪・関西万博）が、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして開催される予定。万博では、様々な国・国際機関・企業・団体等が共創して事業を企画し、テーマが実現された未来社会の姿を会場内に作り出すことを目指す。



# 1. 本事業の趣旨・目的 (公募要領 p.1)

---

- 令和7年（2025年）は、SDGsの達成目標年である令和12年（2030年）の5年前であり、SDGs達成に向けたこれまでの取組の進捗状況を確認し、その達成に向けた取組を加速させるとともに、令和12年より先（+beyond）に向けた目標が示されることも期待される年でもある。
- 本事業では、この万博というまたとない機会を活用し、大阪・関西万博での出展（以下、「本番イベント」という。）を通じて、産学官連携施策を通じた成果や活動を国内外に広く発信するとともに、体験型コンテンツの展示等（以下、「体験型コンテンツ等」という。）を通じて来場者が“未来のありたい社会”を想像し、未来を担う国内外の若者たちが共に社会課題を自分事として捉える機会を提供することを目的とする。
- 以上の実現に向けて、文部科学省では本事業を通じて、本番イベントを見据えた企画の練り込みや磨き上げに資するイベント（以下、「プレイベント」という。）を実施する予定

## 2. 補助事業の内容 (公募要領 p.2)

---

- 「1. 本事業の趣旨・目的」を踏まえて、本番イベントへの出展を希望する大学等に対して、体験型コンテンツの制作及びプレイベントへの出展に係る企画案を公募し、採択されたものを支援。
- 本補助事業により制作した体験型コンテンツは、プレイベントでの出展のみならず、本補助事業終了後も更なる磨き上げを行い、令和7年度に開催する本番イベントでも出展することが前提となる。
- 本補助事業の実施期間：1年度（交付決定日から令和6年度末まで）

## 2. 補助事業の内容

### (参考) 体験型コンテンツ考案のプロセス

#### STEP1 自分たちの研究内容の整理をする

- ・ 研究で解決したい社会課題
- ・ 研究の計画やプロセス
- ・ 社会インパクト

#### STEP2 社会課題を若者視点（中高生）で考える

- ・ 研究分野の社会課題を若者は今どう捉えているのか？
- ・ 現状の社会課題を一番分かりやすく簡単に伝える展示方法・メッセージを考えてみる
- ・ 現状の社会課題を自分事として実感できる体験方法はどのようなものか？
- ・ 現状の社会課題に対して自分の価値観に気づきを与える方法はどのようなものか？

#### STEP3 若者にイベント体験で持ち帰ってもらいたいことを考える

今回の展示を通して一番若者に持ち帰ってほしいことを考える

- ① どんな知識を得てほしいか
- ② どんな気づきを得てほしいか
- ③ どんな行動をとってほしいか

#### STEP4 自分たちの研究テーマ成果を若者に体感してもらう方法を考える

自大学の研究プロセスを体感してもらうために、一番適切な「動詞」を下記から考えてみる

- 例1) 集める …歩きながら集めて、集合体になったときに気づく体感
- 例2) 調べる …展示物の内容を見て調べていくことにより体感
- 例3) 観察する…色々な角度で見たり、時間をかけて観察したりして体感
- 例4) 聞く ……声を聞いたり、音を聞いたりすることにより体感
- 例5) 探す ……たくさんの価値観や物などの中から自分に合う探す体感
- 例6) 発見する …様々な情報の中で自分に一番合うことを発見して気づく体験
- 例7) ○○○○（その他、自分たちの研究テーマ体感方法を検討）

※展示体験手法だけでなく、自分たちの研究プロセスが理解できる手法を考えていくことが重要。

#### STEP5 展示の質向上（巻き込み）を考える（マストではない）

展示の質向上のために下記3つの観点で検討をしてみる

- ① 中高生がSNSでシェアをしなくなる展示  
： 写真を撮りたくなる仕掛け／自撮りしたくなる仕掛け／伝えたくなる仕掛けを考える
- ② 中高生・大学生が参加できる仕掛け  
： 中高生または大学生が展示企画自体に参加していける仕組みを考える
- ③ ネットを通して来場者以外も参加できる仕掛け  
： ネットをつなぎ、国内外とつながれる企画を考える

## 2. 補助事業の内容 (公募要領 p.2)

### ● プレイメント及び本番イベント概要

- ・ 来場者のターゲット …… 中高生などの若者
- ・ サブターゲット …… 国内外の企業・団体
- ・ 企画趣旨 …… 「共創の場」が創る “未来のありたい社会”
- ・ 主な出展者 (想定) …… 産学官連携事業を行う大学等
- ・ 本番イベント …… 万博会期内 (令和7年度) で調整中。  
→ 令和7年8月12～20日  
※搬出入日含む
- ・ プレイメント …… 東京都内にて令和6年度第4四半期で調整中

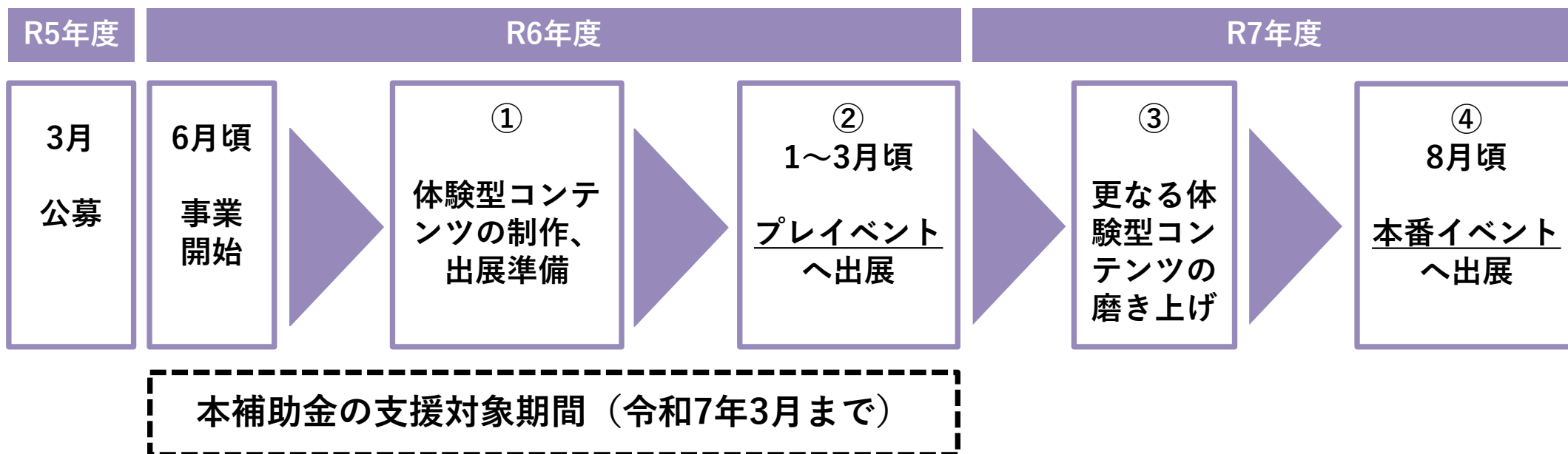
参考 : 『2025年大阪・関西万博アクションプラン Ver.5 個票』81枚目 (本企画アクションプラン)  
[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/expo\\_suisin\\_honbu/pdf/apver5\\_kohyou.pdf](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/expo_suisin_honbu/pdf/apver5_kohyou.pdf)

## 2. 補助事業の内容 (公募要領 p.2)

### ● 事業の進行イメージ

プレイベント及び本番イベントに向けたロードマップは以下のとおり。

- ① 本補助金により、体験型コンテンツの制作及び出展準備に必要な経費を支援。
- ② 本補助金により、プレイベント出展に必要な経費を支援。
- ③ プレイベント後も、引き続き体験型コンテンツの磨き上げを図る  
(本補助金の支援対象外)。
- ④ 本番イベントにおいて出展 (本補助金の支援対象外)。



### 3. 補助対象 (公募要領 p.3)

---

#### ● 対象事業

- 対象事業は、大学等（国公立大学、国公立研究機関等の公的研究機関等、公益法人等の公的性格を有する機関）による、文部科学省または国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の産学官連携事業（※）を行う拠点における研究成果を基にした、体験型コンテンツの制作及び出展。

※ 文部科学省または国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の産学官連携事業の採択実績があることを条件とします。  
なお、現在の採択状況は問いません。

※ 事業例：センター・オブ・イノベーション（COI）プログラム、共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）、地域イノベーション・エコシステム形成プログラム、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）等

## 3. 補助対象 (公募要領 p.3)

---

### ● 対象経費

#### (ア) 事業実施費

産学官連携事業での成果等を活用した体験型コンテンツの制作及びイベントへの出展に必要な雑役務費等（外部への制作外注、出展に伴う輸送・設営等に要する経費を含む）や消耗品、国内旅費、その他業務遂行に必要な経費。  
なお、体験型コンテンツの制作がメインとなるが、その過程において必要最低限の研究開発に要する経費も含む。

#### (イ) 設備備品費

(ア) のほか、体験型コンテンツ制作及びイベントへの出展に必要な設備備品を購入するための経費。補助対象経費に対して設備備品費が相対的に多い場合は、その妥当性を審査で確認します。

#### (ウ) 人件費

体験型コンテンツの展示制作及びイベントへの出展に必要な支援スタッフ等の人件費。ただし、本補助事業は体験型コンテンツの展示制作及び出展を目的としていることから、人件費は必要最小限としてください。補助対象経費に対して人件費が相対的に多い場合は、その妥当性を審査で確認します。

## 4. 申請（公募要領 p.3～5）

---

- 申請
  - 体験型コンテンツの核となる産学官連携の研究成果について核となる研究成果、またその強み・特徴をどのように体験型コンテンツへ活用するか、分かりやすく記載してください。特に、研究成果の新規性や優位性がどのように出展に活かされるのかという観点から分かるよう記載してください。
  - 体験型コンテンツ内容についてどのような体験型コンテンツを制作するか、参考画像（イメージ図）も示しながら具体的に記載してください。特に、来場者が“未来のありたい社会”を想像し、未来を担う国内外の若者たちが共に社会課題を自分事として捉える機会を提供する観点から、どのような気付きや驚き、感動等を与えるか記載してください。
  - 来場者に産学官連携や研究成果の社会実装がどのようなものか知ってもらう観点や中高生などの若者への科学コミュニケーションの観点からも展示コンテンツとして分かりやすい内容になっているかも記載ください。
  - （任意）プレイベント及び本番イベントでは、企画の一環としてトークセッション等の実施も想定しています。上記の体験型コンテンツを活かして、さらなるイベントの充実に向けて有効と考えられるトークセッションの内容の提案がある場合は記載してください。



## 4. 申請（公募要領 p.3～5）

---

### ● 申請

#### ・事業リーダーについて

本補助事業の実施に当たり、中心となって業務遂行を行う者を記載してください。

**事業リーダーは原則1名**とし、期待される資質や能力は、体験型コンテンツの制作及びプレイイベントへの出展を着実に行うマネジメント力とします。また本補助事業により制作した体験型コンテンツを令和7年度に開催の本番イベントに向けて磨き上げ、本番イベントへの出展を着実に出来る者としてします。なお、**事業リーダーは原則申請大学等から選定**してください。

#### ・事業経費について

体験型コンテンツの制作及びプレイイベントへの出展に要する事業経費及び内訳を提出してください。また、事業経費の規模の妥当性が分かるよう可能な限り見積書等を添付してください。

## 4. 申請（公募要領 p.3～5）

---

### ● 申請に関する留意事項

- 本補助事業をより効果的に実施するために、**他の連携する大学等（連携大学等）との共同による体験型コンテンツの制作及び出展が可能**です。ただし、公募への申請は申請大学等がとりまとめて行うこととし、連携大学等が同内容を重複して申請することはできません。また事業リーダーは原則申請大学等から選定してください。
- **他のパビリオン等において既に企業協賛等を得て出展を行うことが予定されているものは提案に含めないでください**。ただし、これに該当しないものであって、本補助事業を活用してもなお不足が見込まれる経費に関して、各申請大学等において企業協賛等により募ることは可能です。
- 制作する体験型コンテンツの概要が分かるよう、**パワーポイント等で参考画像（イメージ図）等を添付**してください。また、イベント会場の調整にあたり、各展示で必要となるスペースを把握するため、**想定される寸法、重量等**を可能な限り具体的に示してください。
- プレイベントの詳細設計や各展示スペースの調整等は、文部科学省が令和6年度に行う予定である業務委託『「2025年日本国際博覧会」における産学官連携拠点の出展に係る企画設計及び機運醸成業務』で実施する**ワーキンググループ等を通じて決定**する予定であり、これに伴うコンテンツ内容の調整に随時ご対応いただくようお願いいたします。

## 5. 審査（公募要領 p.5～5）

---

### ● 審査の観点

審査は、以下の観点に基づき総合的に実施します。

- (ア) 未来を担う国内外の若者たちが共に社会課題を自分事として捉える機会を提供する観点から、気付きや驚き、感動等を与えられる内容か。
- (イ) 来場者に産学官連携や研究成果の社会実装がどのようなものか知ってもらう観点及び中高生などの若者への科学コミュニケーションの観点から、展示コンテンツとして分かりやすい内容か。
- (ウ) 新規性、優位性のある研究成果が含まれる内容か。
- (エ) 来場者が能動的に体験できる内容か。（例えば、五感に訴える等の工夫により、来場者自身に探索的な行動を促すようなものを期待します。）
- (オ) 本番イベント及びプレイベントの企画趣旨に合致する内容か。
- (カ) その他、産学官連携の一層の促進を図る観点から申請大学等と共同による提案がなされた場合、また、体験型コンテンツを活かして、さらなるイベントの充実に向けて有効と考えられるトークセッションの内容の提案がなされた場合、上記（ア）～（オ）に加えて評価します。

## 5. 6. 審査～補助額（公募要領 p.5～6）

---

### ● 審査方法

- 文部科学省が、有識者で構成される審査委員会を設置し、申請内容について総合的に審査を行い、採択。
- 審査委員会において必要と判断された申請については、追加でヒアリングを実施。  
ヒアリングを実施する場合の日程は、5月下旬頃を予定。

### ● 補助額

- 本事業の総額は約 1 億円
- 1 申請あたりの支援規模は、原則3,000 万円を上限
- 採択予定件数は、予算額の範囲内で 3 件程度
- 交付決定にあたっては、全体予算額を勘案しつつ、申請内容に応じた適正な規模の補助額を決定し、文部科学省から申請大学等に対して交付（連携大学等がある場合、連携大学等に対しても直接交付）
- 審査の結果により、展示内容や規模の見直し等の改善意見が出された場合には、支援規模等も含め、これを反映させた決定を行う場合あり。

## 7. 公募手続き及びスケジュール等（公募要領 p.6～8）

---

### ● 申請書類の提出

申請にあたっては、下記提出物①及び②を作成し、電子ファイルで提出。

また、公募申請書は申請大学等の機関代表者名

（連携大学等がある場合、連携大学等の機関代表者名を含む）。

#### <提出物>

① 公募申請書等（様式 1～6、ワード及びエクセルファイル）

② 様式 4 に記載する企画内容を具体的に示す参考画像（イメージ図）等  
（任意様式、パワーポイント等）

※ その他、任意の補足資料を添付することも可能。

※ 電子データの容量が大きい等の理由により電子メールでの送付が困難な場合は、事前に要相談。

<提出締切> **令和6年5月7日（火）正午 必着**

#### <提出・問い合わせ先>

文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課

TEL：03-6734-4020

E-mail：coi-next@mext.go.jp

## 7. 公募手続き及びスケジュール等 (公募要領 p.6~8)

---

### ● スケジュール (想定)

- ・ 令和6年4月4日(木) …… 公募説明会
- ・ **令和6年5月7日(火) 正午** …… **公募締切**
- ・ 令和6年5月中旬  
～5月下旬頃 …… 審査
- ・ 令和6年5月下旬頃 …… 審査結果の公表

(以降採択された申請のみ)

- ・ 令和6年6月上旬頃 …… 交付申請
- ・ 令和6年6月下旬頃 …… 交付決定、事業開始

### ● 結果の通知

審査委員会において追加でヒアリングが必要と判断された場合は、対象となる申請大学等に連絡。最終的に、全ての申請について結果を通知。

## 8. その他（公募要領 p.8～9）

---

### ● 補助金交付等の手続きについて

- 下記の法令等に基づき実施。
  - 「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」（昭和 30 年法律第 179 号）
  - 同法施行令（昭和 30 年政令第255 号）
  - 「地域産学官連携科学技術振興事業費補助金交付要綱」（平成 22 年 2 月 1 日文科部科学大臣決定）
  - 「地域産学官連携科学技術振興事業費補助金取扱要領」（平成 22 年 2 月 1 日科学技術・学術政策局長、研究振興局長決定）

### ● 申請書類の提供について

- 出展の企画検討に必要な情報を収集する観点から、下記業務委託の受託機関へ提供  
※業務委託先において申請内容に関する守秘義務が遵守されますが、提供が困難な情報が申請内容に含まれている場合には、その旨とその内容について本事業の問い合わせ先までご連絡ください。

#### <本事業に係る業務委託一覧>

- ① 「「2025 年日本国際博覧会」における産学官連携拠点の出展に係る企画設計及び機運醸成業務」（令和 6 年度実施）（受託者：未定）
- ② 「「2025 年日本国際博覧会」に向けた産学官連携拠点におけるプレイベント企画・運営業務（仮）」（令和 6 年度実施）（受託者：未定）